

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	12-092	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Smoke-free bar policies and smokers' alcohol consumption: findings from the International Tobacco Control Four Country Survey. 禁煙バー政策と喫煙者の飲酒: the International Tobacco Control Four Country Survey から得られた知見		
<b>執筆者</b>		
Kasza KA, McKee SA, Rivard C, Hyland AJ.		
<b>掲載誌</b>		
Drug Alcohol Depend. 2012 Nov 1;126(1-2):240-5.		
<b>キーワード</b>		
喫煙、飲酒、禁煙バー政策		
<b>要 旨</b>		
<b>背景:</b> 喫煙と飲酒には正の相関があり、現在の喫煙と飲酒の同時摂取はそれぞれの単独使用に関連した健康を脅かすリスクを悪化させる。屋内禁煙政策は喫煙を減らす効果を発揮したが、それらの政策の飲酒習慣への影響については知られていない。		
<b>目的:</b> この研究の目的は、禁煙バー政策の施行と喫煙者の飲酒との潜在的な関連性を評価することである。		
<b>方法:</b> 前向き多国間コホートという調査デザインが利用された。参加者は、International Tobacco Control Four Country Survey (ITC-4) の一環として 2005 年、2007 年あるいは 2008 年にインタビューを受けた、イギリス、オーストラリア、アメリカ合衆国の喫煙者の全国の代表サンプル (N=11,914 名) とした。飲酒の頻度と量の変化を禁煙バー政策の施行における機能として評価した。		
<b>結果:</b> 全体での飲酒の変化は、バーが禁煙になった店と喫煙が許されたままの店との間で統計学的に有意差を認めなかった。しかしながら、禁煙政策の実行は、ヘビースモーカーの飲酒頻度のわずかな減少に加えて、害の有る飲酒者に分類された集団で典型的に消費される飲酒量のわずかな減少と関連していた。		
<b>結論:</b> 公共施設での喫煙禁止は、何百万人も非喫煙者を受動喫煙の悪影響から保護したが、一般的な喫煙者の飲酒量における大きな減少と明らかには関連していなかった。しかし、サブグループの中ではわずかな飲酒量減少と関連していた。		